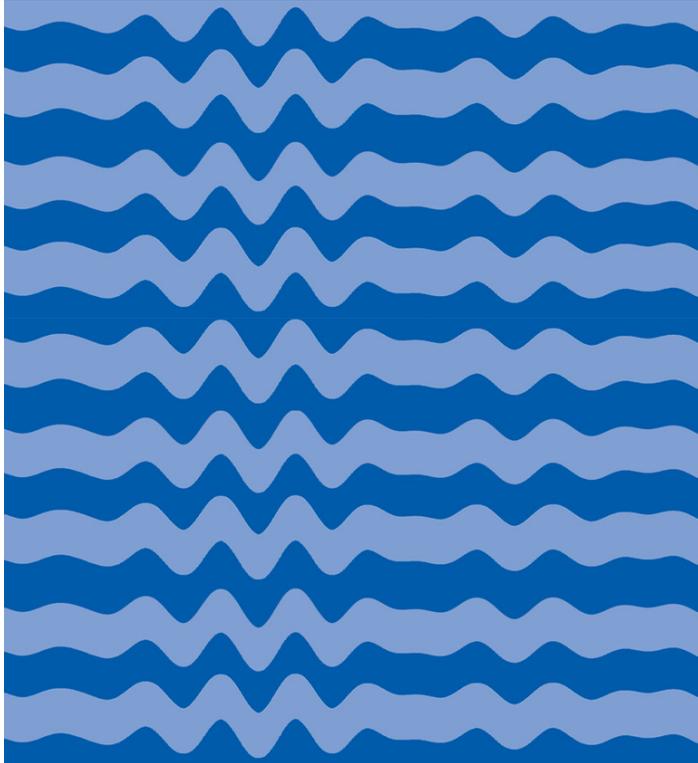


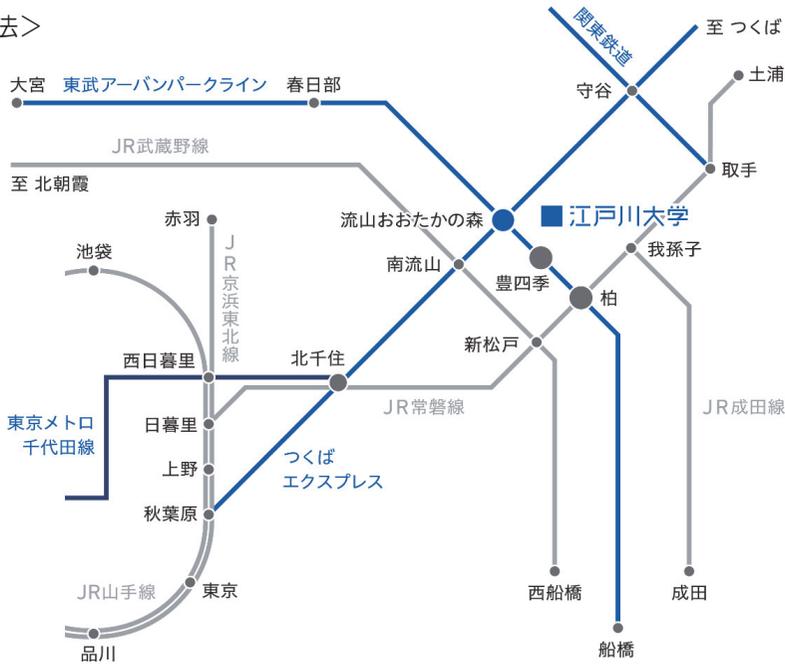
第 35 回日本生理心理学会大会  
プログラム・予稿集



2017 年 5 月 27 日(土)・28 日(日)

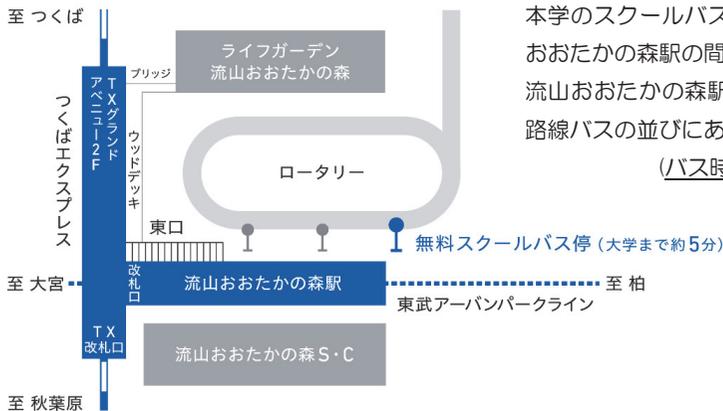
 江戸川大学 E 棟  
EDOGAWA UNIVERSITY

アクセス <大会会場> 〒270-0198 千葉県流山市駒木 474 江戸川大学E棟  
 <アクセス方法>



秋葉原	つくばエクスプレス 11分	北千住	つくばエクスプレス 14分(快速)	流山おおたかの森	無料 スクール バス 約5分	江戸川大学		
つくば	つくばエクスプレス 12分(快速)	守谷	つくばエクスプレス 6分(快速)					
南浦和	JR武蔵野線 25分	南流山	つくばエクスプレス 3分(快速)				徒歩 18分	
西船橋	JR武蔵野線 17分	春日部	東武アーバンパークライン 35分					
大宮	東武アーバンパークライン 21分(急行で15分)	柏	東武アーバンパークライン 5分				豊四季	徒歩 12分
船橋	東武アーバンパークライン 30分		東武アーバンパークライン 3分				梅林	徒歩 5分
上野	JR常磐線 29分(特別快速で25分)		東武アーバンパークライン 9分					
土浦	JR常磐線 37分(特別快速で32分)							

「流山おおたかの森」駅周辺マップ



本学のスクールバスは大学正門前と流山おおたかの森駅の間を運行しています。流山おおたかの森駅の停留所は東出口の路線バスの並びにあります。

(バス時刻表は p 2 に掲載)



## 第 35 回日本生理心理学会大会について

第 35 回大会では、生物学的視点から行動をとらえるという生理心理学の基本をしっかりと踏まえながら、関連する心理学諸領域との広い「つながり」をテーマといたしました。

本学会会員の皆様が生理心理学に関心を持ったきっかけはいろいろかと思いますが、一つ共通していることは、行動を言葉と概念で説明してなるほどと納得してしまう心理学に対する疑問があったのではないのでしょうか。生理心理学は、「心と身体」ではなく「身体は心」である、つまり心は身体が持つ機能の一つであると考えています。ワトソンによる行動主義は、現代の心理学にも影響を持ち続けておりますが、そこでは客観的に外から観察可能な行動のみを対象とすべきであると提唱しました。これに加えて、外からは観察できない、身体内部で起きている行動をとらえるための具体的な測定値を持つ生理心理学は、心理学全般に大きく貢献してきたと思います。一方、生理心理学は、生体反応を測定する技術の進歩とともに発展してきたこともあって、生理心理学会という学会は、研究領域というよりは研究手法をもとにまとまっている学会とみることができると思います。このような状況の中で、このままでは生理心理学会の範囲を自ら狭くしてしまうという問題があるように思われます。そこで、大会テーマを冒頭で記したものといたしました。

特別講演は、生理心理学とは少し離れた領域の研究ではありますが、数年前から新聞等の報道でも話題に上っている「犯罪者プロファイリング」について、この分野における第一人者の一人である科学警察研究所の横田賀英子先生にお話しいただきます。犯罪者プロファイリングは、その名前はよく知られているものの、正しく理解されていない面もあります。本講演で、科学的犯罪者プロファイリングの本当の姿をお伝えしたいと思います。

シンポジウムは、睡眠に関するもの、瞬目と自律系を中心とした抹消系の反応と行動に関するもの、公募による自主シンポジウムの三つを企画いたしました。

日本の睡眠状況は世界最悪であることをよくご存じと思いますが、ここ数年の間によく睡眠の重要性が社会的にも注目されるようになってきました。我々の日々の生活を支える睡眠について、人間工学、精神医学および臨床心理学の立場からの研究を取り上げます。瞬目・自律系では、認知情報処理や対人コミュニケーションの場における生理反応の意味、生理心理学が有効に活用されている犯罪捜査における隠匿情報検査（CIT）時の生理反応の意味を、非制御的行動も含めて探ります。本大会での試みである公募シンポジウムは、若手研究者を中心とした安静時の脳活動をテーマとした自主企画シンポジウムです。近年デフォルトモードの脳活動が注目されていることから、活発な議論が期待されます。

大会会場の江戸川大学へは、つくばエクスプレス（TX）、JR 常磐線、東武鉄道アーバンパークラインの 3 系統でアクセスできます。特に最寄り駅である「流山おおたかの森駅」には、つくばエクスプレス（TX）の快速で秋葉原から 25 分で着きます。

スタッフ一同、多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

第 35 回日本生理心理学会大会準備委員会  
委員長 高澤 則美

# 江戸川大学スクールバスダイヤ

5/27(土) 流山おおたかの森駅発					時	5/27(土) 江戸川大学発			
	10	25	45		8			35	
05	15	25	35	45	9	05	25	50	
00		20		40	10	10	30	50	
00	10			40	11			40	50
00				50	12	00		30	50
					13				
		20		40	14	10	30		50
00	20			40	15	10	30		
	10	30		50	16	00	20	40	
					17		20	40	
					18		20		
					19		20	40	50 56
					20	10 12	28 30		44
					21				

5/28(日) 流山おおたかの森駅発					時	5/28(日) 江戸川大学発			
	20	36		52	8				
08		24		40	9				
00		23		40	10		30		
	10	23		50	11			40	
	10	23		40	12		30		
				44	13				52
00					14		36	50	
					15	10	26	42	58
06					16		14	30	46
					17	02	18	34	
					18				
					19	10	30		
					20				

江戸川大学へは流山おおたかの森駅(つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン(旧・東武野田線))からスクールバスをご利用いただく以外にも、豊四季駅(東武アーバンパークライン)から徒歩(12分)、もしくは、柏駅西口からの東武バス(西口2番乗り場)に乗り、梅林バス停で降り、徒歩(5分)でお越しいただくことも可能です。

## 江戸川大学周辺地図

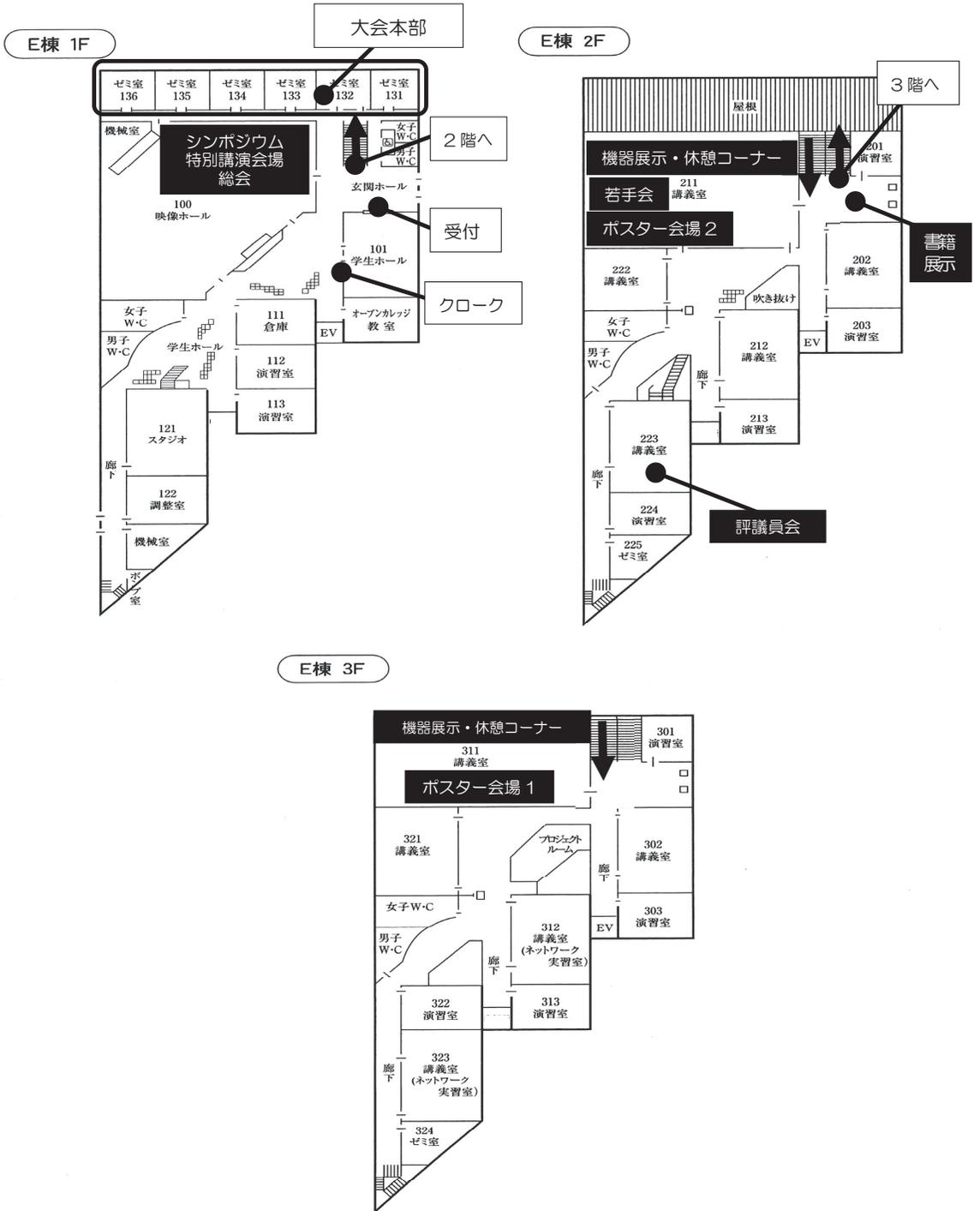




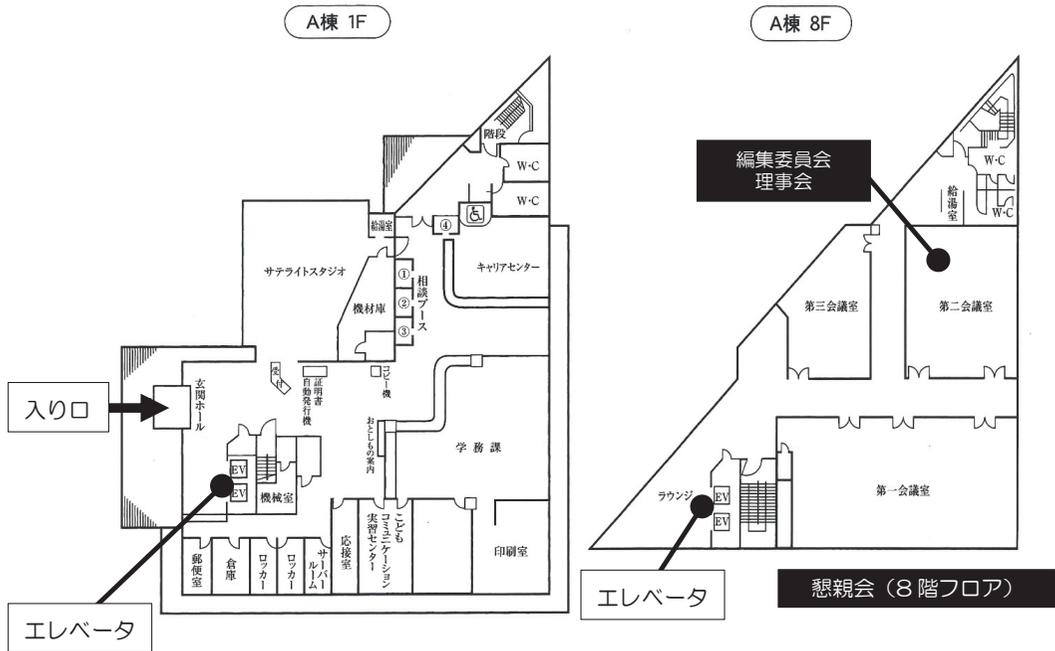
### 会場一覧

大会受付.....	E棟 1F
講演・シンポジウム会場・総会.....	E棟 1F 映像ホール(E100 教室)
ポスター発表会場 1.....	E棟 3F E311 教室
ポスター発表会場 2.....	E棟 2F E211 教室
休憩コーナー.....	E棟 2F E211 教室
クローク.....	E棟 1F
若手会.....	E棟 2F E211 教室
機器展示・書籍販売.....	E棟 2F E211 教室・3F 311 教室
懇親会.....	A棟 8F フロア全体
理事会・編集委員会.....	A棟 8F 第2会議室
評議員会.....	E棟 2F E223 教室
第35回大会本部.....	E棟 1F

# 大会会場 E棟案内図



# 理事会・編集委員会・懇親会会場



## 大会日程

5月26日(金):大会前日

15:00	16:00	17:30
編集委員会 A棟8F	理事会 A棟8F	
第2会議室	第2会議室	

5月27日(土):大会第1日

9:00	10:00	12:00	12:10	13:20	13:30	15:30	17:00	17:30	19:30
受付	ポスター発表 1 (a, b)	評議員会 E棟223	若手会	シンポジウム 1 「生理反応測定と 行動科学とのつながり」	公募シンポジウム 「安静時脳活動 の利用と展望」				懇親会 A棟8F

5月28日(日):大会第2日

9:00	9:30	11:30	11:40	12:50	13:00	14:20	16:20
受付	シンポジウム 2 「ひろがる睡眠学」	総会 映像ホール		特別講演 「犯罪者プロファイ リングの理論と実際」			ポスター発表 2 (c, d)

# 大会参加者へのご案内

## 1 受付

大会受付は、両日ともに9時00分よりE棟1Fにて行います。参加者は必ず手続きを済ませてください。受付で参加証(裏面に領収書)をお渡しいたしますので、所定欄に氏名と所属を記入し、大会期間中、会場内では参加証をつけてください。

## 2 大会参加費

正会員の当日支払い、および非会員の参加費は6,000円です。学部学生(受付時に学生証を提示してください)の参加費は1,000円です。なお、正会員で予約前納(5,000円)されている方につきましては、当日の支払いは不要ですが、受付で参加証の受け取りをお願いいたします。

## 3 クローク

クロークは、E棟1Fの受付の横に設けます。第1日目は9時00分より19時45分、第2日目は9時00分より16時30分までご利用いただけます。

## 4 機器展示・書籍販売

E棟2Fと3Fのポスター発表会場、および2Fの階段脇のスペースにて、機器の展示および書籍の販売を行います。

## 5 懇親会

大会1日目17時30分より、大学内のA棟8Fにて懇親会を開催いたします。人数に若干の余裕がありますので、事前申し込みされなかった方で参加ご希望の方は大会受付にて懇親会費6,000円を添えてお申し込みください。

## 6 休憩スペース

E棟2Fと3Fのポスター会場内に休憩スペースを設けます。ご自由にご利用ください。

## 7 学会関係諸会議

編集委員会、理事会、評議員会、総会については大会日程やプログラムをご覧ください。

## 8 若手会について

大会初日の昼の時間帯に E211 の休憩スペースにて「真昼の若手会」が開催されます。この会では、大会初発表の修士課程の学生さん(M1とM2)による「Data Blitz (1人1分の制限時間での自己紹介および研究紹介)」が行われます。発表者は修士の学生さんに限られますが(事前申し込みが必要)、聴衆としての参加はどなたでも可能です。お問い合わせは、[tamakoshi@tezuka-gu.ac.jp](mailto:tamakoshi@tezuka-gu.ac.jp)(若手 WG 代表 玉越先生)までお願いいたします。

## 9 昼食

大会会場の江戸川大学の学生食堂は、大会当日には営業していません。大学から徒歩5分程度のところにコンビニエンスストアおよび飲食店はありますが、店の数は非常に少なくなっています。事前予約されたお弁当は、両日とも11時30分よりE棟1Fの受付脇のスペースでお渡しいたします(お弁当代は1,000円です)。

## 10 会場内での飲食と喫煙について

会場内で飲食される際には、休憩スペースをご利用ください。大学構内では、喫煙スペース以外は禁煙となっております。喫煙スペースは会場案内図でご確認ください。

## 11 会場でのインターネット利用

本大会では、会期中に会場内でお使いいただけるワイヤレスインターネット・アカウントを発行いたします。ご希望の方は大会受付にお申し出ください。なお、PC 端末は設置いたしませんので、ご了承ください。

## 12 掲示板

E棟1Fの大会受付付近に掲示板を用意します。連絡用にご利用ください。

## 13 駐車場

大会会場の駐車場は数が限られており、参加者の皆様の利用は出来ません。公共交通機関のご利用をお願い致します。

## 14 大会期間中の連絡

大会期間中の連絡電話番号は、050-3554-9974(大会本部)です。緊急の要件の場合のみ、ご利用ください。

# 発表者へのご案内

## 1 ポスターの貼り方および文字の大きさ

ポスター掲示用のパネルは、高さ 180 cm、幅 120 cm の大きさです。ポスターの最上段に、発表題目と発表者全員の氏名および所属を示してください。連名発表の場合、主発表者の氏名の前に○印をつけてください。文字の大きさは指定しませんが、ポスターから 2 m の距離でも文字が見える程度を目安にしてください。画鋲はポスター発表会場受付に用意します。

## 2 ポスター掲示時間

ポスター発表は、E 棟 211 教室および 311 教室で行われます。ポスターは、ご自身の演題番号のついたパネルに掲示してください。下記の在籍責任時間に関わらず、出来る限り **2 日間** 掲示していただけますようお願いいたします(初日の 9:00 から掲示可能)。なお、2 日目の 16 時 30 分までにポスターの撤去をお願いします。指定時間までに撤去されなかったポスターは大会本部で処分いたしますので、ご了承ください。

主発表者の在席責任時間は以下のとおりです。在席責任時間中に主発表者の出欠を確認いたします。

ポスター番号末尾のアルファベット	期日	在籍時間
a	5 月 27 日 (土)	10:00 ~ 11:00
b	5 月 27 日 (土)	11:00 ~ 12:00
c	5 月 28 日 (日)	14:20 ~ 15:20
d	5 月 28 日 (日)	15:20 ~ 16:20

## 3 発表取り消し

主発表者が欠席された場合には、発表取り消しとみなします。ただし、連名発表の場合、大会長の承認を得て、連名者(他に主発表を有しない会員に限る)を主発表者に変更することができます。主発表者の欠席や変更の連絡は、大会前日までに大会事務局に、また、大会期間中は受付にご連絡ください。

## 4 学会誌掲載用原稿の提出

ポスター発表の主発表者は書式にしたがって「発表抄録原稿」を作成し、Microsoft Word形式で保存したファイルをメール添付にて、5月26日(金)までに編集委員会事務局(jsped@hiroshima-u.ac.jp)まで提出ください。保存する際のファイル名は「演題番号・主発表者」(例 P-105a・江戸川太郎)にしてください。発表抄録原稿のテンプレートは大会HP(<http://www1.edogawa-u.ac.jp/~jspp2017/download.html>)よりダウンロードできます。

特別講演・シンポジウム・公募プログラムでの講演者・発表者の方には、ご提出いただく学会誌掲載用原稿に関しまして、大会準備委員会より個別にご連絡いたします。

## 5 発表資格

### (1) 正会員の方

主発表者及び連名発表者のいずれにもなることができます。大会期間中に主発表者になれるのは、1会員1回限りです。ただし、シンポジウム・ワークショップでの発表者はこの限りではありません。

入会手続きに関してご不明な点は、日本生理心理学会事務局へお問合せください。

E-Mail: [seirishinri-post@bunken.co.jp](mailto:seirishinri-post@bunken.co.jp)

### (2) 非会員の方

連名発表者になることができます。非会員連名発表者登録料は不要です。なお、シンポジウム・ワークショップに関しては登壇者になることも可能です。

日本生理心理学会大会抄録原稿作成要領  
—2017年度版—

○主発表者 姓 名 (△△大学□□研究科)  
連名発表者 姓 名 (所属)

本学会の学術大会の折に提出していただく発表抄録は、学会誌“生理心理学と精神生理学”に掲載されます。抄録原稿は、以下に述べる要領にしたがって作成し、word形式のまま(あるいはword形式とpdfの両方を)編集事務局(jsped@hiroshima-u.ac.jp)宛にメールで送ってください。ファイル名は“演題番号・主発表者”としてください。

抄録の構成

科学論文の要件を満たすように、研究の目的、方法、結果、考察などの項目に分けて記述してください。一連発表の場合にも、それぞれの発表が完結した論文であることが必要です。書き方は“心理学研究”の執筆・投稿の手引きに準じます。ただし、著者が3名以上の場合の文献の引用の仕方は異なります。

用紙と書式

Microsoft Wordを使用して、A4用紙1ページで作成してください。24字×42行×2段とします。余白は上下を30mm、左右を20mmとってください。

題目 MS ゴシック 10pt, 中央寄せ。副題がある場合は、前後に“—: 全角ダッシュ”をつけます。

発表者名 MS 明朝 10pt, 左寄せ。姓と名の間に全角スペースを入れ、主発表者の氏名の前に○印をつけてください(連名発表者がいない場合も)。

所属 MS 明朝 8pt. 氏名の横にスペースを入れずに書き、“( ): 全角丸かっこ”で囲みます。所属が大学の場合には学部、研究科等まで記入してください。連名の場合、発表者の所属が同一の時には一つだけ記入します。連名者が多数の時でも、所属は省略せず、正式な名称で記述してください。所属が複数ある場合には、“: 全角カンマ”で区切ってください。

見出し MS ゴシック 10pt. “方法”, “結果”, “考察”は横大見出し(左寄せ, 本文は改行して始める), “実験参加者”などは横小見出し(左端を1字あけ, 本文は1字あけて続ける), “引用文献”や複数の実験を報告する場合の“実験1”などは中央大見出しとします。

本文 日本語はMS明朝, 英数字はTimes New Romanの10ptを使用してください。発表者名・所属

の行から1行あけて始め、段落の最初は1字下げてください。句読点は“,: 全角カンマ”と“.: 全角マル”を用います。英数字は全て半角とします。

記号など 統計量を表す記号(M, SD, t, F, p, dfなど)は、ギリシア文字を除いて斜体にします。例や説明を書く場合にはコロン(:)を用います。セミコロン(;)は、検定結果を列挙する場合および括弧内に引用文献を列挙する場合のみに使ってください。括弧は、原則として2重括弧の場合も含め( )を使用します。下線・傍点は、原則として使用しないでください。数式記号のうち、“=: 半角等号”, “<: 半角不等号”の前後, “,: 半角カンマ”の後には、半角スペースを入れてください。量を表す数字と単位の間には、半角スペースを入れます。

図表 図と表を合わせた面積が全体の1/3を超えないようにしてください。図表には、番号とタイトルを必ず記入してください。写真の掲載はできません。カラー印刷はできませんので、Figure 1のようにグレースケール化してください。また、Table 1に本文での文献の引用の仕方を示します。



Figure 1. カラー図版のグレースケール化

Table 1. 本文での文献の引用の仕方

著者数	文章として入れる場合	括弧内に示す場合
1名	著者(出版年)は… Author (Year) は…	…である(著者, 出版年)。 …である(Author, Year)。
2名	著者・著者(出版年)は… Author & Author (Year) は…	…である(著者・著者, 出版年)。 …である(Author & Author, Year)。
3名以上	著者ら(出版年)は… Author et al. (Year) は…	…(著者ら, 出版年)。 …(Author et al., Year)。

引用文献

引用文献は、最後に一括して示します。表記が2行以上にわたる場合には、2行目以降を全角2文字下げてください。著者の姓のアルファベット順に並べ、著者が全く同じ場合には、出版年順に並べます。

(脚注・謝辞など MS 明朝 8pt 左寄せ。本文の最後に書いて、“( ): 全角丸かっこ”で囲んでください。)

# プログラム

## 講演およびシンポジウム (E棟 1F 映像ホール)

### ----- 大会 1 日目 5 月 27 日 (土) -----

#### シンポジウム 1 「生理反応測定と行動科学とのつながり」…………… 13:30 ~ 15:30

企画・司会: 高澤 則美 (江戸川大学 名誉教授)

話題提供: 福田 恭介 (福岡県立大学 人間社会学部)  
廣田 昭久 (鎌倉女子大学 児童学部)  
小川 時洋 (科学警察研究所 法科学第四部)

#### 公募シンポジウム 「安静時脳活動の利用と展望」…………… 15:30 ~ 17:00

企画・司会: 金山 範明 (広島大学大学院 医歯薬保健学研究院)

話題提供: 中尾 敬 (広島大学 教育学研究科)  
川越 敏和 (島根大学 医学部)  
高村 真広 (広島大学大学院 医歯薬保健学研究院)

指定討論: 小野田 慶一 (島根大学 医学部神経内科)

### ----- 大会 2 日目 5 月 28 日 (日) -----

#### シンポジウム 2 「ひろがる睡眠学」…………… 9:30 ~ 11:30

企画・司会: 福田 一彦 (江戸川大学 社会学部)

話題提供: 樋口 重和 (九州大学 芸術工学研究院)  
高橋 敏治 (法政大学 文学部)  
山本 隆一郎 (江戸川大学 社会学部)

#### 特別講演 「犯罪者プロファイリングの理論と実際」…………… 13:00 ~ 14:20

講演: 横田 賀英子 (科学警察研究所 犯罪行動科学部)

司会: 高澤 則美 (江戸川大学 名誉教授)

## 諸会議

### ----- 大会前日 5月26日(金) -----

編集委員会 (A棟8F第2会議室)..... 15:00 ~ 16:00

理事会 (A棟8F第2会議室)..... 16:00 ~ 17:30

### ----- 大会1日目 5月27日(土) -----

評議員会 (E棟2F 223教室)..... 12:10 ~ 13:20

### ----- 大会2日目 5月28日(日) -----

総会 (E棟1F映像ホール)..... 11:40 ~ 12:50

## 懇親会・若手会

### ----- 大会1日目 5月27日(土) -----

真昼の若手会 (E棟2Fポスター第2会場)..... 12:10 ~ 13:20

懇親会 (A棟8Fフロア)..... 17:30 ~ 19:30

## ポスター発表 第1会場 (E311 教室)

2017年5月27日(土) 10:00 ~ 12:00

2017年5月28日(日) 14:20 ~ 16:20

### 在籍責任時間

ポスター番号のアルファベットが a: 5月27日(土) 10:00 ~ 11:00  
b: 5月27日(土) 11:00 ~ 12:00  
c: 5月28日(日) 14:20 ~ 15:20  
d: 5月28日(日) 15:20 ~ 16:20

P-001a

#### 内受容感覚の敏感さとミラーシステム活動の関連

池田悠稀 九州大学大学院統合新領域学府 / 日本学術振興会特別研究員  
西村悠貴 九州大学大学院統合新領域学府 / 日本学術振興会特別研究員  
樋口重和 九州大学大学院芸術工学研究院

P-002b

#### 自動模倣抑制訓練がミラーシステム活動に与える影響

西村悠貴 九州大学大学院統合新領域学府 / 日本学術振興会特別研究員 DC  
池田悠稀 九州大学大学院統合新領域学府 / 日本学術振興会特別研究員 DC  
樋口重和 九州大学大学院芸術工学研究院

P-003c

#### 呼吸性脳波変動: 基本動態および個人差の検討

福島宏器 関西大学社会学部  
Olga Pollatos ウルム大学健康心理学部

P-004d

#### θ帯域 tACS は背側前帯状回のネットワーク機能を低下させる

小野田慶一 島根大学医学部  
川越敏和 島根大学医学部  
鄭海霞 島根大学医学部  
山口修平 島根大学医学部

P-005a

**自己の行為に対する随伴性が後続事象の空間的予測に与える影響**

木村 司 関西学院大学大学院文学研究科  
片山順一 関西学院大学文学部

P-006b

**不快刺激の注意捕捉効果：3刺激オドボール課題の逸脱・不快語に対する P3 の分析**

赤嶺亜紀 名古屋学芸大学ヒューマンケア学部  
石田光男 愛知学院大学心身科学部  
金田宗久 愛知学院大学心身科学研究科  
榊原雅人 愛知学院大学心身科学部

P-007c

**顔に対する事象関連電位における表情と色相の効果**

西田優也 東京学芸大学大学院教育学研究科  
池田一成 東京学芸大学教育実践研究支援センター

P-008d

**空間性系列順序記憶を担う神経基盤の検討**

肥後克己 情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター  
岡本尚子 立命館大学産業社会学部  
苅阪満里子 情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター

P-009a

**直立顔と上下反転顔における化粧が顔知覚と N170 に与える効果**

田中秀明 追手門学院大学心理学部心理学科

P-010b

**聴覚刺激による刺激先行陰性電位 (SPN) の前期成分と後期成分**

大上淑美 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院  
小谷泰則 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院  
吉田宣清 東京大学医科学研究所  
桐生 茂 東京大学医科学研究所  
井上優介 北里大学医学部

P-011c

**感性的な適合性判断に伴う事象関連電位**

吉盛絵里加 広島大学総合科学研究科  
入戸野 宏 大阪大学人間科学研究科

P-012d

**身体的魅力が惹きつける注意は刺激の物理特性の影響ではない**

伏田幸平 関西学院大学大学院文学研究科  
片山順一 関西学院大学文学部

P-013a

**非注意文字列に特異的な初期 ERP の経時的変化**

奥村安寿 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部  
宇野智己 北海道大学大学院教育学院  
河西哲子 北海道大学大学院教育学研究院  
室橋春光 天使大学教養教育科

P-014b

**情動喚起動画視聴中の脳波活動に関する多変量パターン解析**

守谷大樹 株式会社国際電気通信基礎技術研究所認知機構研究所

P-015c

**個人の愛着スタイルが排斥・受容刺激に対する注意配分に及ぼす影響**

伊崎 翼 広島大学大学院総合科学研究科  
小川景子 広島大学大学院総合科学研究科

P-016d

**刺激欠落に対する MMN が反映する規則性の検討**

玉越勢治 帝塚山学院大学人間科学部  
片山順一 関西学院大学文学部

P-017a

**聴覚刺激の同時呈示が視覚刺激の記銘処理に及ぼす効果**

江口愛実 広島大学大学院総合科学研究科  
小川景子 広島大学大学院総合科学研究科

P-018b

**逸脱刺激のタイミングに関する事前情報が視覚ミスマッチ陰性電位に及ぼす影響**

木村元洋 産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター

P-019c

**視覚弁別課題の難度上昇による逸脱刺激への注意捕捉の促進**

–逸脱刺激の呈示タイミングと感覚モダリティの影響–

杉本史恵	産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター
木村元洋	産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター
武田裕司	産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター
片山順一	関西学院大学文学部

P-020d

**呈示時間弁別の反応方法と課題難度が妨害効果に及ぼす影響**

仲 早苗	関西学院大学大学院文学研究科
片山順一	関西学院大学文学部

P-021a

**モンティ・ホール・ジレンマ課題の学習に伴う神経活動変化**

–刺激前陰性電位に着目して–

平尾貴大	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科
正木宏明	早稲田大学スポーツ科学学術院

P-022b

**ニューロモジュレーションによる言語理解の促進**

井原 綾	国立研究開発法人情報通信研究機構
早川友恵	帝京大学文学部心理学科
曾雌崇弘	国立研究開発法人情報通信研究機構

P-023c

**健康な超高齢者脳波の部位間関係について**

–若年者との比較–

水上喜美子	仁愛大学人間学部
熊谷享子	名古屋女子大学短期大学部
堅田明義	中部学院大学人間福祉学部

P-024d

**定型発達成人の視覚探索課題遂行時における選択的注意の処理過程の様相**

菅原恵理	筑波大学人間総合科学研究科
岡崎慎治	筑波大学人間系

P-025a

**刺激輝度とラムダ反応 (P1, P2) に関する検討**

小川景子	広島大学大学院総合科学研究科
高橋和也	広島大学総合科学部
宮内 哲	情報通信研究機構
古田 歩	前田眼科
仲泊 聡	理化学研究所

P-026b

**脳波を用いた外国語能力評価の試み**

松本 敦	情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター
尾島司郎	横浜国立大学教育学研究科
片山順一	関西学院大学文学部
佐々木彩葉	関西学院大学人間福祉学部
成瀬 康	情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター
井原 綾	情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター

P-027c

**観察による行為の虚記憶に及ぼす運動シミュレーションの影響**

**－脳波からの検討－**

柏原志保	広島大学大学院教育学研究科
金山範明	広島大学医歯薬保健学研究院
宮谷真人	広島大学大学院教育学研究科
中尾 敬	広島大学大学院教育学研究科

P-028d

**新型電極を用いたマウス・ラットの脳波計測**

坂田省吾	広島大学大学院総合科学研究科
中村勇太	広島大学大学院総合科学研究科

P-029a

**内受容感覚が感情認識に与える影響**

**－事象関連電位を用いた検討－**

田仲祐登	慶應義塾大学社会学研究科
伊藤友一	慶應義塾大学先導研究センター
柴田みどり	慶應義塾大学先導研究センター
寺澤悠理	慶應義塾大学文学部
梅田 聡	慶應義塾大学文学部

P-030b

**画像の空間周波数が感情知覚に及ぼす影響**

黒原玄弥 広島大学大学院総合科学研究科  
小川景子 広島大学大学院総合科学研究科

P-031c

**行動活性化システム感受性と異性の顔に対する注意反応との関連：事象関連電位研究**

崔 多美 産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター  
綿貫茂喜 九州大学大学院芸術工学研究院

P-032d

**においては抑制・情報処理パフォーマンスに影響するのか**

後藤広太郎 東京農業大学オホーツクキャンパス生物産業学部教職課程  
佐野正樹 網走市立西が丘小学校  
軍司真究 東京農業大学オホーツクキャンパス生物産業学部

P-033a

**視線手がかり課題における表情の効果と刺激情報処理の時間特性  
－事象関連電位を用いた検討－**

辻 幸樹 慶應義塾大学大学院社会学研究科  
柴田みどり 慶應義塾大学先導研究センター  
梅田 聡 慶應義塾大学文学部

P-034b

**乳幼児の母親における年齢と短期記憶課題成績の関連についての研究**

林 小百合 九州大学大学院統合新領域学府  
和田宏子 九州大学大学院統合新領域学府  
樋口重和 九州大学大学院芸術工学研究院  
キム ヨンキュ 九州大学大学院芸術工学研究院

P-035c

**フィードバック刺激の特性と人格的要因の関係**

石井主税 吉備国際大学大学院心理学研究科  
小西賢三 吉備国際大学心理学部

P-036d

**環境音を用いたオドボール課題遂行時の事象関連電位**

田原 敬	茨城大学教育学部
平山太市	茨城大学大学戦略・IR 室
関口貴之	茨城大学大学院教育学研究科
勝二博亮	茨城大学教育学部

P-037a

**顔面皮膚温および顔面映像を用いた非接触脳活動センシング技術の構築**

小谷泰則	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院
大上淑美	東京工業大学リベラルアーツ研究教育院

P-038b

**プライミング課題を用いた表情模倣の検討**

－事象関連電位，筋電図を指標として－

吉田勇太	吉備国際大学大学院心理学研究科
小西賢三	吉備国際大学大学院心理学研究科

P-039c

**ハイレゾ音源をヘッドホンで聴取することが心理生理反応に与える効果**

入戸野 宏	大阪大学大学院人間科学研究科
栗林龍馬	大阪大学大学院人間科学研究科

P-040d

**不安になりやすい性格傾向とストレス負荷が苦味感覚におよぼす影響**

加藤みわ子	愛知淑徳大学人間情報学部
中島佳緒里	日本赤十字豊田看護大学看護学部
伊藤康宏	藤田保健衛生大学医療科学部
清水 遵	愛知淑徳大学心理学部

P-041a

**情緒的サポートメッセージが社会的排斥下の認知的処理に与える影響**

－ERP を指標とした検討－

山縣豊樹	北海道大学大学院文学研究科
片山順一	関西学院大学文学部・応用心理科学研究センター
村田明日香	北海道大学社会科学実験研究センター

P-042b

**不安の決定因としての不確実性**

—XA+/XB—条件性弁別の枠組みを用いた実験的検討—

沼田恵太郎	甲南大学人間科学研究所
小松丈洋	高知県警察本部科学捜査研究所
嶋崎恒雄	関西学院大学文学部
佐藤暢哉	関西学院大学文学部
八木昭宏	関西学院大学名誉教授
宮田 洋	関西学院大学名誉教授

P-043c

**読み聞かせ場面における幼児の視線探索パターン**

小野寺 藍	茨城大学大学院教育学研究科
久保愛恵	茨城大学大学院教育学研究科
田原 敬	茨城大学教育学部
勝二博亮	茨城大学教育学部

P-044d

**他者存在が恐怖映像視聴時の情動的变化に及ぼす影響**

川崎勝義	星薬科大学薬学部心理学研究室
平本美月	日本女子大学人間社会学部心理学科
小山高正	日本女子大学人間社会学部心理学科

P-045a

**スピーチ直前の感情変動が瞬目活動に及ぼす影響**

田中 裕	川村学園女子大学文学部心理学科
------	-----------------

P-046b

**皮膚コンダクタンスからみた主観的鳥肌感と生理的覚醒との関連**

手塚洋介	大阪体育大学体育学部
------	------------

P-047c

**唾液アミラーゼ活性を指標とした運動負荷に対するガリの効果**

日高茂暢	作新学院大学人間文化学部
相馬 聡	作新学院大学経営学部
春日正男	作新学院大学経営学部
遠藤栄一	遠藤食品株式会社
大場輝子	遠藤食品株式会社

P-048d

**課題遂行と時間経過に伴う唾液中コルチゾール濃度の低下について**

齋藤慶典	日本大学文理学部
井澤修平	独立行政法人労働安全衛生総合研究所
小川奈美子	早稲田大学人間総合研究センター
依田麻子	日本大学文理学部

P-049a

**感情的な涙に伴う自律神経活動の変化：感情価の違いによる検討**

高木彩夏	慶應義塾大学社会学研究科
田仲祐登	慶應義塾大学社会学研究科
寺澤悠理	慶應義塾大学文学部
梅田 聡	慶應義塾大学文学部

P-050b

**呼吸セルフコントロールに伴う快・不快の呼吸感覚測定尺度の開発**

寺井堅祐	福井赤十字病院ストレス心療科
黒原 彰	放送大学
梅沢章男	放送大学福井学習センター

P-051c

**花による癒しと肩の筋硬度の相関について**

内田誠也	一般財団法人 MOA 健康科学センター
木村友昭	一般財団法人 MOA 健康科学センター
山岡 淳	一般財団法人 MOA 健康科学センター
松本 洸	日本大学芸術学部

P-052d

**スキンケア行為の生理心理学的検討**

引間理恵	花王株式会社感性科学研究所
河島三幸	花王株式会社感性科学研究所
廣田昭久	鎌倉女子大学児童学部

P-053a

**交互協調タッピング課題における2者のタイミング特性の特定**

高見澤賢侍	筑波大学大学院システム情報工学研究科
川崎真弘	筑波大学大学院システム情報工学研究科

P-054b

**同調行動としてのあくびに関する心理的・生理的反応の検討**

梁 昱茜                      日本大学大学院文学研究科心理学専攻  
齋藤慶典                    日本大学文理学部

P-055c

**アシスティブテクノロジーへの応用のための 6-Scale,S.D.法**

内久根聖志                日本大学理工学部

P-056d

**ラットにおける恐怖条件づけの消去に及ぼす D-cycloserine 投与の影響  
－ストレスレジリエンスの違いによる比較－**

上野将玄                    筑波大学大学院人間総合科学研究科  
山田一夫                    筑波大学人間系  
一谷幸男                    筑波大学人間系

## ポスター発表 第2会場 (E211 教室)

2017年5月27日(土) 10:00 ~ 12:00

2017年5月28日(日) 14:20 ~ 16:20

### 在籍責任時間

ポスター番号のアルファベットが a: 5月27日(土) 10:00 ~ 11:00  
b: 5月27日(土) 11:00 ~ 12:00  
c: 5月28日(日) 14:20 ~ 15:20  
d: 5月28日(日) 15:20 ~ 16:20

P-057a

近赤外分光法を用いた情報秘匿時の脳血流動態反応に関する実験的検討  
-時間特性と空間特性の側面から-

新岡陽光 法政大学人文科学研究科

P-058b

近赤外分光法を用いた自己関連刺激に対する前頭前皮質の賦活に関する検討  
-隠匿情報検査における質問項目の特性に着目して-

長田泰平 法政大学大学院人文科学研究科

新岡陽光 法政大学大学院人文科学研究科

P-059c

視覚・聴覚同時呈示法を用いた P300 の虚偽検出における CM の検討

植田善博 福山大学大学院人間科学研究科

平 伸二 福山大学人間文化学部

濱本有希 静岡県警察本部刑事部科学捜査研究所

古満伊里 広島修道大学健康科学部

P-060d

刺激間隔による隠匿情報検査時の生理活動水準変動の違い

小川時洋 科学警察研究所情報科学第一研究室

松田いづみ 科学警察研究所情報科学第一研究室

常岡充子 科学警察研究所情報科学第一研究室

P-061a

**隠匿情報検査データにおける個人差および個人内変動の除去法に関する検討**

渋谷友祐	鳥取県警察本部刑事部科学捜査研究所
岡田謙介	専修大学人間科学部
小川時洋	科学警察研究所法科学第四部情報科学第一研究室
松田いづみ	科学警察研究所法科学第四部情報科学第一研究室
常岡充子	科学警察研究所法科学第四部情報科学第一研究室

P-062b

**ローレンツプロットを用いた規準化脈波容積の表示**

坂東英輔	埼玉県警科学捜査研究所
------	-------------

P-063c

**実務ポリグラフ検査時の模擬検査-本検査間の反応の関連性**

**－階層ベイズモデルによる分析－**

小林孝寛	京都府警察本部
渋谷友祐	鳥取県警察本部
宮脇かおり	京都府警察本部
藤原修治	京都府警察本部

P-064d

**CIT の質問作成の検討**

**－模擬犯罪中の生理反応と覚醒イベントの影響－**

中山 誠	関西国際大学人間科学部
李 韓碩	関西国際大学人間行動学研究科

P-065a

**眼球運動を用いた虚偽検出**

**－非接触的測定による刺激呈示法の検討 (3)－**

小野洋平	駒澤大学文学部
石岡綾香	駒澤大学文学部
軽部幸浩	駒澤大学文学部
谷口泰富	駒澤大学文学部

P-066b

**懸念的被透視感と隠匿情報検査の反応の関係**

大塚拓朗	兵庫県警察本部刑事部科学捜査研究所
片山順一	関西学院大学文学部

P-067c

**断眠が友人関係における透明性の錯覚に与える影響**

浅岡章一 江戸川大学社会学部  
齊藤美帆 江戸川大学社会学部

P-068d

**1 か月間の連続観察法による勤務間インターバルと血圧、疲労の関連性**

池田大樹 労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所  
久保智英 労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所  
井澤修平 労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所  
高橋正也 労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所  
土屋政雄 労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所  
林 典江 サトーホールディングス株式会社  
北川由季 日本マイクロソフト株式会社

P-069a

**仮眠後の睡眠慣性抑制に対する音楽聴取の効果**

古谷真樹 神戸大学大学院人間発達環境学研究科  
松島 渚 神戸大学発達科学部

P-070b

**夜勤に従事する看護師の睡眠 - 覚醒リズムと体温に関する症例研究**

野々口陽子 同志社女子大学看護学部  
山田富美雄 関西福祉科学大学心理科学部  
広重佳治 福山市立大学教育学部

P-071c

**眼球関連情報を用いた持続的注意低下の状態推定法**

阿部高志	産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター
三島和夫	国立精神神経医療研究センター精神生理研究部
北村真吾	国立精神神経医療研究センター精神生理研究部
肥田昌子	国立精神神経医療研究センター精神生理研究部
井上雄一	東京医科大学睡眠学講座
水野 康	宇宙航空研究開発機構, 東北福祉大学教育学部
甲斐田幸佐	産業技術総合研究所
中崎恭子	国立精神神経医療研究センター
元村祐貴	国立精神神経医療研究センター
太田敏子	宇宙航空研究開発機構
古川 聡	宇宙航空研究開発機構
David F. Dinges	University of Pennsylvania
緒方克彦	宇宙航空研究開発機構

P-072d

**REM 睡眠中の嗅覚刺激提示の夢への効果**

－刺激の好悪の個人差に着目して－

岡部聡美	広島大学大学院総合科学研究科
福田一彦	江戸川大学社会学部人間心理学科
望月寛子	国立研究開発法人農研機構野菜花き研究部門
山田一夫	筑波大学人間系

P-073a

**就床前の気分操作が不快な夢内容へ及ぼす影響**

瀬戸奏音	広島大学大学院総合科学研究科
小川景子	広島大学大学院総合科学研究科

P-074b

**大学生の生活リズムに影響を及ぼす心理行動的要因 (1)**

－活動量データを用いた周期性解析の試み－

佐藤俊彦	東北文化学園大学大学院健康社会システム研究科
高橋研人	東北大学加齢医学研究所

P-075c

**思考の時間的方向性の処理と個人差：事象関連電位による検討**

伊藤友一	慶應義塾大学先導研究センター
柴田みどり	慶應義塾大学先導研究センター
田仲祐登	慶應義塾大学社会学研究科
寺澤悠理	慶應義塾大学文学部
梅田 聡	慶應義塾大学文学部

P-076d

**安静時脳波における前頭  $\alpha$  波の左右非対称性と反芻特性との関連**

加藤美幸	広島大学教育学研究科
宮城 円	広島大学教育学研究科
中川 彩	広島大学教育学研究科
服巻 豊	広島大学教育学研究科
金山範明	広島大学大学院医歯薬保健学研究院
宮谷真人	広島大学教育学研究科
中尾 敬	広島大学教育学研究科

P-077a

**疼痛緩和に Binaural Beat は効果をもつのか**

**－脳波活動からの検討－**

橋本 翠	広島文化学園大学看護学部
吉田勇太	吉備国際大学大学院心理学研究科
小西賢三	吉備国際大学大学院心理学研究科

P-078b

**ミラー錯覚の程度を客観的に評価する方法の探索**

木内隆裕	森ノ宮医療大学保健医療学部理学療法学科
羽田悠佑	森ノ宮医療大学保健医療学部理学療法学科
鈴木真央	森ノ宮医療大学保健医療学部理学療法学科

P-079c

**階層刺激処理時における自閉スペクトラム症児の局所優位の視覚情報処理過程**

**－事象関連電位による検討－**

大井亜由美	筑波大学大学院人間総合科学研究科
岡崎慎治	筑波大学人間系
大六一志	

P-080d

**注意欠如・多動性障害児におけるフランク－課題遂行中の上前頭皮質の過活動**

鈴木浩太	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部
奥村安寿子	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部
北 洋輔	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部
大井雄平	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部
山下裕史朗	久留米大学医学部
後藤隆章	常葉大学教育学部
稲垣真澄	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部

P-081a

**自閉症スペクトラムの事象関連性コヒーレンスの予備的検討 (2)**

高橋由子	高知大学大学院総合人間自然科学研究科
松本秀彦	高知大学学生総合支援センター
寺田信一	高知大学教育学部門

P-082b

**強迫傾向による自己主体感に関する脳波ネットワーク**

伊與木菜生	筑波大学大学院システム情報工学研究科
川崎真弘	筑波大学大学院システム情報工学研究科

P-083c

**アルファ波同期ネットワークとうつ傾向の関係性**

相場邦宏	筑波大学大学院システム情報工学研究科
宮内英里	筑波大学大学院システム情報工学研究科
川崎真弘	筑波大学大学院システム情報工学研究科

P-084d

**ASD 傾向が高い成人の感覚処理傾向と局所・大域的逸脱に対する MMN との関連**

柳 民秀	東京学芸大学教育実践研究支援センター
池田一成	東京学芸大学教育実践研究支援センター

P-085a

**定型発達大学生の注意機能に関する IVA-CPT による生理心理学的評価**

**－発達障害特性、大学生生活不安及び困り感との関連－**

松本秀彦	高知大学学生総合支援センター
高橋由子	高知大学大学院教育学研究科
寺田信一	高知大学教育学部門

P-086b

**胎児期 PCB・dioxin 曝露が学童期の脳活動に与える影響についての検討**

山崎圭子 北海道大学環境健康科学研究教育センター  
岸 玲子 北海道大学環境健康科学研究教育センター

P-087c

**物云わぬ発達障害幼児，高齢認知症の心理状態を健康偏差値で  
－そのバランス反応を読み解く－**

後藤幸生 名古屋国際医学技術専門学校

P-088d

**重度・重複障害児の応答行動に関する生理心理学的評価**

小林亜由美 茨城大学大学院教育学研究科  
高橋ひかり 茨城大学教育学部  
田原 敬 茨城大学教育学部  
勝二博亮 茨城大学教育学部

P-089a

**まなざし課題における視線行動と性格特性の関連**

市川寛子 東京理科大学理工学部

P-090b

**Go・No-Go 刺激の呈示比率と瞬目時間分布**

福田恭介 福岡県立大学人間社会学部  
松尾太加志 北九州市立大学文学部  
志堂寺和則 九州大学大学院システム情報科学研究院  
早見武人 岡山大学大学院自然科学研究科

P-091c

**ADHD モデルラット SHR の大脳皮質および海馬におけるミスマッチ陰性電位様反応に対する methylphenidate 投与効果**

麦島 剛 福岡県立大学人間社会学部  
久保浩明 九州大学医学研究院  
坂 徳子 福岡県立大学心理教育相談室  
井上真澄 産業医科大学医学部  
吉井光信 東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野  
榛葉俊一 静岡済生会総合病院精神科

P-092d

Case study investing the HR of three children with autism spectrum disorders before and after episodes of stereotyped behavior in the school environment

芝垣正光 関西国際大学人間科学部  
沢田武則 富山大学人間発達科学部

P-093a

**除法筆算観察時における教師の視線特徴**

岡本尚子 立命館大学産業社会学部  
黒田恭史 京都教育大学教育学部

P-094b

**運動選手における随意運動時の脳波 $\theta$ 帯域の出現様式**

川島哲史 日本大学大学院文学研究科心理学専攻  
依田麻子 日本大学心理学科  
森 昭雄 日本大学大学院文学研究科

P-095c

**剣道の対峙場面における挑戦・脅威に関する精神生理学的評価**

－正面打ちに対する技のイメージを用いて－

大東実里 奈良女子大学大学院人間文化研究科  
星野聡子 奈良女子大学

P-096d

**運ゲームとスキルゲームのドキドキ感は似て非なるもの**

本多麻子 東京成徳大学応用心理学部

P-097a

**腹横筋と腹直筋に着目した呼吸様式が骨盤底筋収縮に及ぼす影響**

辻野和美 ホリスティックヘルス研究会  
星野聡子 奈良女子大学

P-098b

**一過性運動が意図的な忘却に与える影響**

曾我啓史 早稲田大学スポーツ科学研究科  
Tobias Vogt German Sport University Cologne  
正木宏明 早稲田大学スポーツ科学学術院

P-099c

**手指運動の観察と模倣時における認知処理負荷**

柳田裕一郎 早稲田大学スポーツ科学研究科  
正木宏明 早稲田大学スポーツ科学学術院

P-100d

**運動学習成立レベルと腹外側前頭前野活動の関係**

－バスケットボール経験者と初心者における比較検討－

宇野英樹 北星学園大学社会福祉学部  
後藤広太郎 東京農業大学教職課程  
小林 寛 東京農業大学教職課程  
桑垣彩乃 東京農業大学教職課程  
室橋春光 天使大学看護栄養学部

P-101a

**スポーツ観戦行動と心臓血管系応答の関係**

星野聡子 奈良女子大学生生活環境学部  
大東実里 奈良女子大学大学院人間文化研究科

P-102b

**新規の運動学習における運動イメージの効果的な導入タイミングと方法に関する検討**

山本周生 広島大学総合科学部総合科学科  
小川景子 広島大学大学院総合科学研究科

P-103c

**Ladd (1887) 『生理学的心理学要説』から130年：日本における生理心理学の展開 (1)**

高砂美樹 東京国際大学人間社会学部